

# 看護学部基礎科目

## 看護学部学部基礎科目一覧

科目コード	2011・2010・2009年度入学生	
30001	人間関係論	
30002	生命倫理	
30003	人間と哲学	
30004	キリスト教福祉	
30005	福祉文化論	
30006	社会学	
30007	法学	
30008	生活と自然環境	
30009	生涯発達心理学	
30010	生命科学の基礎 (化学・生物含む)	

科目コード	2008年度入学生	
31000	人間関係論	→30001参照
31001	生命倫理	→30002参照
31002	人間と精神保健	休講
31003	人権と教育	休講
31004	対人援助の基礎知識	休講
31005	キリスト教福祉	→30004参照
31006	福祉文化論	→30005参照

## 30001 人間関係論 (Theory of Human Relations)

配置年次 1  
単位数 2 期間 後期  
担当者 江尻 桂子  
履修可能学科  
N

関連資格  
看護

到達目標

援助する者と援助される者とのあいだで、より良い人間関係を築くためにはどうしたらよいのかを、心理カウンセリングの基礎を学びながら考察してゆく。

授業計画

- 第1回：この授業の到達目標と概略
- 第2回：カウンセリングとは
- 第3回：カウンセリングの基本：傾聴技法（1）基本姿勢
- 第4回：カウンセリングの基本：傾聴技法（2）受容・支持・繰り返し
- 第5回：カウンセリングの基本：傾聴技法（3）明確化と質問
- 第6回：カウンセリングの基本：問題の対処法（1）リファラー・ケースワークなど
- 第7回：カウンセリングの基本：問題の対処法（2）スーパービジョン・コンサルテーションなど
- 第8回：事例検討（1）友人関係の相談
- 第9回：事例検討（2）進路の相談
- 第10回：事例検討（3）不登校の相談
- 第11回：模擬カウンセリング（1）
- 第12回：模擬カウンセリング（2）
- 第13回：心理・福祉・医療における人間関係（1）欲求階層理論から考える対人援助
- 第14回：心理・福祉・医療における人間関係（2）地域医療の実際
- 第15回：より良い人間関係にむけて：総まとめ

授業概略

他者を援助するためには、相手との信頼関係に基づき、より良い人間関係の構築が必要です。そのためには「相手の話に耳を傾ける」ことが大切です。この考えのもと、この授業ではカウンセリングの基本的な手法（傾聴技法・具体的な対応の仕方）を学びながら、人間関係について考えます。学生同士でペアを組んでの模擬カウンセリングや、事例検討をもとに、より良い傾聴、信頼関係の築き方についてディスカッションします。また、視覚教材をもとに、福祉や医療における援助の在り方についても学びます。

教科書

授業で使用する資料についてはすべて配布します。

参考書

授業のなかで適宜、紹介します。

成績評価の方法・基準

1) 出席回数、2) 授業態度、3) 授業後に提出するコメント、4) 学期末試験、5) レポート提出状況により評価します。レポート未提出もしくは試験未受験の受講生に対しては、原則として単位を出すことができません。

事前準備学習

模擬カウンセリングやグループディスカッションなど、受講生同士の交流の機会が多い授業です。初対面の人と積極的に交流しようという気持ちをもって授業に臨んで下さい。人との交流が苦手という方には受講をお勧めしません。他者の気持ちを理解しようと努力する姿勢があることが受講の条件です。また、「人間関係」がテーマですから、自分自身の抱える人間関係の問題について考える機会があるかもしれません。これらの点を了解の上、受講してください。

備考

履修条件等：「心理学」を履修済みまたは履修中であること

とが望ましい(←ただし履修可能である学科の場合)。授業中の私語、携帯メールなどは謹んでください。受講生多数の場合、抽選により人数調整を行うことがあります。座席を指定します。

## 30002 生命倫理 (Bioethics)

配置年次 1  
単位数 2 期間 前期  
担当者 中川 明博  
履修可能学科  
N

関連資格  
看護

到達目標

医療技術の急速な発達によって人間の生と死を人為的にコントロールすることが可能になった。しかしそうした変化は、伝統的な価値観では対処しきれない新たな倫理的問題を引き起こしている。脳死、臓器移植、出生前診断、尊厳死、代理出産などをめぐる問題がその代表的なものである。この講義の目標は、新しい医療技術がどのような倫理問題を引き起こし、それをめぐってどのような議論がなされているのかを知ること、倫理の根本原則にはどのようなものがあるのかを学び、それを説明できるようにすること、そして受講者ひとりひとりが望ましい生と死のあり方について考える力を養うことにある。

授業計画

- 【第01回】 遺伝～遺伝子・DNA・ゲノム
- 【第02回】 生命操作
- 【第03回】 パーソン論～人間とは何か
- 【第04回】 代理母・代理出産
- 【第05回】 お産の社会史～医学化された歴史
- 【第06回】 優生学と社会ダーウィニズム
- 【第07回】 脳死と臓器移植
- 【第08回】 臓器移植の問題点
- 【第09回】 尊厳死と安楽死
- 【第10回】 医者と患者～インフォームド・コンセント
- 【第11回】 キュアとケア
- 【第12回】 キリスト教の生命観
- 【第13回】 仏教の生命観
- 【第14回】 日本人の生命観
- 【第15回】 生命倫理におけるその他の諸問題とまとめ

授業概略

医療技術の発展によって現在どのようなことが可能になっているのか、そしてそこから生じる新たな倫理問題にどのようなものがあるのかを項目ごとに解説し、生命をめぐる諸問題の倫理的是非を検討していく。倫理問題を考える際に規準となる倫理的な原則についても説明していく。あわせて洋の東西の生命観も取り上げていきたい。必要に応じてDVDも使用する予定。

教科書

生命倫理教育研究協議会『テーマ30生命倫理』教育出版、2008年（改訂3版）、本体900円

参考書

なし。

成績評価の方法・基準

学期末試験（100点満点）の素点を、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価する。ただし無断欠席1回につき10点、無断遅刻早退1回につき5点を減じる。

事前準備学習

教科書の該当箇所を事前に読んでくること。

備考

就職活動等によって授業を欠席する場合は、必ず連絡をすること。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

## 30003 人間と哲学 (Human and Philosophy)

配置年次 1  
単位数 2 期間 後期  
担当者 中川 明博  
履修可能学科  
N

関連資格  
看護

到達目標

西洋哲学史の中から抽出した重要な哲学説について、それぞれの問題意識、それに対する解答およびその根拠、各々の哲学の意義と問題点を理解し、説明できるようにすることをめざす。また、哲学で論じられている問題について、自ら根源的、批判的に考えることができるようにし、各自の人間観・世界観をより豊かにしていくことを目標とする。

授業計画

- 【第1回】存在論的哲学(1)ー初期自然哲学者たちの探究
- 【第2回】存在論的哲学(2)ーソクラテスの愛知
- 【第3回】存在論的哲学(3)ープラトンのイデア論
- 【第4回】存在論的哲学(4)ーアリストテレスにおける実体
- 【第5回】意識論的哲学(1)ーデカルトの主観ー客観図式
- 【第6回】意識論的哲学(2)ーロックの経験論
- 【第7回】意識論的哲学(3)ーパークリー、ヒュームによる経験論の展開
- 【第8回】意識論的哲学(4)ーカントの批判哲学
- 【第9回】言語論的哲学(1)ーウイトゲンシュタインの写像理論
- 【第10回】言語論的哲学(2)ーウイトゲンシュタインの言語ゲーム
- 【第11回】言語論的哲学(3)ー言語行為論
- 【第12回】現代哲学の諸潮流(1)ー構造主義の考え方
- 【第13回】現代哲学の諸潮流(2)ー現象学の考え方
- 【第14回】現代哲学の諸潮流(3)ー実存思想の考え方
- 【第15回】哲学の意義について、および講義のまとめ

授業概略

この授業では、哲学とはどのような問いを提起し、どのような探究を行う学問なのかを理解するために、西洋哲学における問いの形式を3つの型に分けて考察していく。「真に存在しているものは何か?」を問う存在論的哲学、「私は何を知ることができるのか?」を問う意識論的哲学、「言葉によって私は何を理解しているのか?」を問う言語論的哲学である。それぞれの代表的哲学者を取り上げ、その理路をたどっていく。あわせて現代の重要な哲学の潮流も取り上げ、現在何が議論されているのかを見ていく。哲学的な問いは、ふだん私たちが自明だと思っている事柄の根拠や意味をあらためて問い直す点に特徴がある。この授業を通じて物事を根本的に考えることの大切さと楽しさを学んでもらいたい。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準

学期末試験(100点満点)の素点を、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価する。ただし無断欠席1回につき10点、無断遅刻早退1回につき5点を減じる。

事前準備学習

特になし。

備考

就職活動等によって授業を欠席する場合は、必ず連絡をす

ること。

## 30004 キリスト教福祉 (Christian Welfare)

配置年次 1  
単位数 2 期間 前期  
担当者 山中 俊克  
履修可能学科  
N

関連資格

看護

到達目標

社会福祉が対象とする「人」についてのキリスト教的な視点で理解するとともに、キリスト教が社会福祉の発展に与えた影響について理解することができる。

授業計画

- 【第01回】授業のオリエンテーション
- 【第02回】社会福祉とは何か
- 【第03回】キリスト教の信仰の意味
- 【第04回】人間とは何か
- 【第05回】生と死の問題
- 【第06回】キリスト教社会福祉実践者(マザーテレサ)
- 【第07回】キリスト教による人間理解1(ジェンダー)
- 【第08回】キリスト教による人間理解2(子ども)
- 【第09回】キリスト教社会福祉実践者(石井十次)
- 【第10回】キリスト教による人間理解3(障害児・者)
- 【第11回】キリスト教による人間理解4(家族)
- 【第12回】キリスト教信仰による生き方(水野源三)
- 【第13回】キリスト教による人間理解5(高齢者)
- 【第14回】キリスト教と社会
- 【第15回】まとめ

授業概略

社会福祉の歴史的発展の流れをみるときに、キリスト教が与えた影響は非常に大きいといえます。そしてキリスト教の信仰に基づいて生きた人、あるいはキリスト教信仰により社会福祉の実践に携わってきた人びとの生き方に着目することは、社会福祉とキリスト教との関係だけではなく、キリスト教の基礎となっている聖書について学ぶ機会にもなります。

この授業では、まず福祉が対象とする「人」を聖書ではどのようにとらえているのか、キリスト教に基づく人間理解を深めることを目的とします。神の側からみた人間理解といえるでしょう。また、生活していくうえで困難を抱えた人びとを支えたキリスト教社会福祉を実践した人びとのたらしきを通して、生きる意味、他者を支える意味について考察します。

教科書

石居正己・熊澤義宣監修、江藤直純・市川一宏編集『社会福祉と聖書』リトン、および聖書。

参考書

志村 真『イエス・キリスト教の人間観』角川学芸出版 2008年。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、課題レポートの完成度、および定期試験などの総合評価を行います。

事前準備学習

なし。

## 30005 福祉文化論 (Studies in Welfare Culture)

配置年次 1  
単位数 2 期間 後期  
担当者 富樫 ひとみ

履修可能学科

N

関連資格

看護

到達目標

私たちの社会生活の中に組み込まれている福祉制度について、概要を説明することができる。

この福祉制度を支える社会の仕組みや福祉文化はどのように発展してきたのかを説明することおよび、社会における福祉的課題を発見することができる。

授業計画

1. 社会福祉の意味
2. 生きるために必要なもの
3. ライフサイクルとライフコース
4. ライフサイクル・ライフコースと社会福祉制度
5. 子どもの養育と社会福祉
6. 健康と社会福祉
7. 失業と社会福祉
8. 加齢と社会福祉
9. 社会福祉制度と対象者
10. 児童への福祉制度
11. 障害者への福祉制度
12. 生活困窮者への福祉制度
13. 高齢者への福祉制度
14. 社会福祉制度を支える仕組み
15. 文化の発展と福祉制度の変遷およびまとめ

授業概略

社会福祉制度が私たちの社会生活の中でどのように機能しているのか、考える力を養います。個人が自立できなくなる場合を想像することによって、どの様な援助が必要とされるのか、考えていきます。国家が個人への援助を行うための社会の仕組みも考えていきます。

教科書

なし。

授業で使用する資料については全て配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

期末試験を100点満点で素点とします。欠席および遅刻、授業態度を考慮して、総合的に評価します。

事前準備学習

社会における福祉的課題を見つけるつもりで、日頃からニュースに関心を向けてください。

30006 社会学 a

(Sociology a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 森 謙二

履修可能学科

N

関連資格

福祉主 看護

到達目標

自分たちが生きている時代と社会を理解すること。社会科学的な考え方ができること。

授業計画

- 1 社会学の基礎概念
- 2 欲求の体系としての市民社会（個人と社会）
- 3 市民社会の構造—市場・家族・国家
- 4 市民的公共性の成立と展開—民主主義とは何か
- 5 深まる社会の矛盾
- 6 マスコミ
- 7 福祉国家の展開
- 8 まとめ（1）

9 情報化社会の展開とIT

10 グローバル化の背景

11 近代家族について

12 個人化する家族

13 <いのち>と家族

14 福祉国家の危機とリスク社会—福祉レジューム論

15 まとめ

授業概略

私達は、どのような社会に、どのような時代に生きているのか、これが全体を通じてのテーマになります。

近代から現代にかけての市民社会の展開を概説した上で、家族と現代社会の変化（リスク社会の展開）を中心に講義をしたいと思います

どのような仕組みの社会で生きていくのか、どのように社会と関わりながら生きているのか、自分は社会に対して何ができるのか、このような問題を考えながら話を進めていきたい。

授業は、原則として、パワーポイントを用いて行います。

教科書

家族に関しては、清水・森・岩上・山田編『家族革命』（弘文堂）

参考書

授業中に指示。

成績評価の方法・基準

試験（80%）と出席（20%）で総合的に判断する。ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

事前準備学習

授業の前にユニパから資料をダウンロードしてください。授業が終わったら、ノートの整理を。

30006 社会学 b

(Sociology b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 森 謙二

履修可能学科

N

関連資格

福祉主 看護

到達目標

自分たちが生きている時代と社会を理解すること。社会科学的な考え方ができること。

授業計画

- 1 社会学の基礎概念
- 2 欲求の体系としての市民社会（個人と社会）
- 3 市民社会の構造—市場・家族・国家
- 4 市民的公共性の成立と展開—民主主義とは何か
- 5 深まる社会の矛盾
- 6 マスコミ
- 7 福祉国家の展開
- 8 まとめ（1）
- 9 情報化社会の展開とIT
- 10 グローバル化の背景
- 11 近代家族について
- 12 個人化する家族
- 13 <いのち>と家族
- 14 福祉国家の危機とリスク社会—福祉レジューム論
- 15 まとめ

授業概略

私達は、どのような社会に、どのような時代に生きているのか、これが全体を通じてのテーマになります。

近代から現代にかけての市民社会の展開を概説した上で、家族と現代社会の変化（リスク社会の展開）を中心に講義をしたいと思います

どのような仕組みの社会で生きていくのか、どのように社

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

会と関わりながら生きているのか、自分は社会に対して何ができるのか、このような問題を考えながら話を進めていきたい。

授業は、原則として、パワーポイントを用いて行います。

#### 教科書

家族に関しては、清水・森・岩上・山田編『家族革命』（弘文堂）

#### 参考書

授業中に指示。

#### 成績評価の方法・基準

試験（80%）と出席（20%）で総合的に判断する。ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

#### 事前準備学習

授業の前にユニパから資料をダウンロードしてください。授業が終わったら、ノートの整理を。

## 30007 法学 a (Law a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 博

履修可能学科

N

関連資格

福祉主 看護

到達目標

学生にとって身近である法律のテーマを取り上げていきます。生活の視点から、具体的に考えることができます。法律的なものの見方、考え方を身につけることができます。

授業計画

- 第01回 ガイダンスとアンケートの記入
- 第02回 法とは何か
- 第03回 マナー、モラル、ルール、規範を考える
- 第04回 「六法」の見方、使い方
- 第05回 児童虐待防止法と児童福祉法
- 第06回 子どものトラブルと法律
- 第07回 親子と法律
- 第08回 夫婦（結婚・離婚）と法律
- 第09回 高齢社会と法律（1）扶養と介護
- 第10回 高齢社会と法律（2）相続と遺言
- 第11回 医療と法律（1）患者の自己決定権
- 第12回 医療と法律（2）臓器移植法
- 第13回 医療と法律（3）「代理母」裁判
- 第14回 医療と法律（4）安楽死と尊厳死
- 第15回 全体のまとめ

授業概略

社会に起こる事象について、法律はどう考え、解決しようとするのか、法の基本を理解します。そして、誰もが直面する親子、夫婦、医療などのテーマを例に、わかりやすく解説します。

教科書

『新六法』（三省堂）を使います。

資料を配布しますので、大切に保存してください。試験の際必要になります。

参考書

各テーマの参考となる本などは、テーマを取り上げた際に紹介します。

成績評価の方法・基準

出席、アンケート、宿題、試験などを総合的に判断します。

事前準備学習

社会に起こっているトラブル・事件などに関心を持つことが大切です。生活の中で、社会の出来事に敏感になり、問題意識を持つことが事前の勉強です。

備考

受講生が多い科目ですので、私語については厳しく対処します。

## 30007 法学 b (Law b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 古屋 等

履修可能学科

N

関連資格

福祉主 看護

到達目標

社会における法の存在を認識し、その機能を役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件Ⅰ
- 7 犯罪の成立要件Ⅱ
- 8 刑事手続の基本原則
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造
- 11 財産関係と法Ⅰ
- 12 財産関係と法Ⅱ
- 13 家族関係と法Ⅰ
- 14 家族関係と法Ⅱ
- 15 まとめ・テスト

授業概略

社会のルール（規範）としての法の役割と機能を認識することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、どうしても私たちが規律するというイメージが強く、場合によっては罰せられる、できるだけ関わらないことが望ましい対象だと思われるかもしれませんが、法とは私たち自身が、私たちや権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たちのルール（約束）なのです。したがって、それを守ること、従うことは当然のことなのです。罰せられること、賠償の支払いなどを通じて責められることは、約束違反に対する制裁にすぎません。これらは、あくまで二次的な、約束を守ってもらうための手段にすぎないのです。このような、法を守る必要性について、私たちの生活に深く関わっている民法や刑法を通じて学んでいきます。また、それらをめぐる紛争解決のための法、すなわち、裁判法を勉強することにより、将来社会人になった時の問題の対処法や裁判員になった場合の心得についても勉強していきます。

教科書

上野幸彦・古屋等『国家と社会の基本法』〔補訂版〕（成文堂）2500円＋税

参考書

『六法』（種類は問いませんが、新規に購入される場合は、岩波書店の『セレクト六法』1300円＋税をおすすめします）

成績評価の方法・基準

授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。

事前準備学習

授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんと

とつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

## 30007 法学 c (Law c)

配置年次 1  
単位数 2 期間 後期  
担当者 古屋 等  
履修可能学科  
N

### 関連資格

福祉主 看護

### 到達目標

社会における法の存在を認識し、その機能を役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

### 授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件 I
- 7 犯罪の成立要件 II
- 8 刑事手続の基本原則
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造
- 11 財産関係と法 I
- 12 財産関係と法 II
- 13 家族関係と法 I
- 14 家族関係と法 II
- 15 まとめ・テスト

### 授業概略

社会のルール（規範）としての法の役割と機能を認識することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、どうしても私たちが規律するというイメージが強く、場合によっては罰せられる、できるだけ関わらないことが望ましい対象だと思われるかもしれませんが、しかし、法とは私たち自身が、私たちや権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たちのルール（約束）なのです。したがって、それを守ること、従うことは当然のことなのです。罰せられること、賠償の支払いなどを通じて責められることは、約束違反に対する制裁にすぎません。これらは、あくまで二次的な、約束を守ってもらうための手段にすぎないのです。このような、法を守る必要性について、私たちの生活に深く関わっている民法や刑法を通じて学んでいきます。また、それらをめぐる紛争解決のための法、すなわち、裁判法を勉強することにより、将来社会人になった時の問題の対処法や裁判員になった場合の心得についても勉強していきます。

### 教科書

上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔補訂版〕（成文堂）2500円＋税

### 参考書

『六法』（種類は問いませんが、新規に購入される場合は、岩波書店の『セレクト六法』1300円＋税をおすすめします）

### 成績評価の方法・基準

授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。

### 事前準備学習

授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。

重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんととつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

## 30008 生活と自然環境 (Life and Natural Environment)

配置年次 1  
単位数 2 期間 前期  
担当者 飯田 利明  
履修可能学科  
N

### 関連資格

看護

### 到達目標

食を通して、現代の人の生活と自然環境の関係を考えることができる環境の中でのこれからの社会のあり方について、自分なりに考える基礎的な知識を持つことができる

### 授業計画

1. はじめに
2. 50年前の茨城と日本の食生活
3. 身近なLost World
4. 石油に依存した経済成長と人口爆発
5. 大量生産、大量消費、大量廃棄社会＝都市化した人類
6. 食料生産の増加と農業保護政策による低価格化
7. 過剰穀物を利用した肉食とバイオ燃料
8. 環境の過剰利用と環境汚染
9. 気候変動と食料生産 水と気温
10. 生産現場では石油依存農業と緑の革命
11. 慣行栽培と有機栽培 「有機農業推進法」
12. 遺伝子組み換え作物の現状
13. 都市を支える食の外部化とファストフード化
14. 捨てられる「食品」と食料自給率
15. 人は何を食べて生きるのか

### 授業概略

わたしたちが生きていくのに必要不可欠な「衣食住」は、すべて回りの自然環境から産み出されている。この授業では、中でも日々欠かせない「食」を中心として考えてみたい。

現代のわたしたちは忙しく、目先のことしか見えない現実がある。環境のこと、日本と世界で起きていること、その経緯など、あまりにも複雑多様でわかりにくい。しかも人は忘れやすく、自分に都合の悪いことは見て見ぬ振りができる存在でもある。

しかし生活スタイルの過去100年間の変化は、質量共にあまりにも大きく、地域に根ざした伝統的生活スタイルが失われた。そして100年前にはまったく考えられなかったことだが、今ではわたしたちの日々の食卓が世界と繋がっている時代になった。

この状況が今後も続くのか。持続可能な生活を実現する鍵は、どこにあるのか。

だからこそ変化という時間方向の探索と合わせて、わたしたちの住む世界とここ茨城に軸足を置いて、食を通して、人と環境の関係を探ってみたい。

### 教科書

なし

### 参考書

授業内容を深めるために、必要な参考書、ホームページ等を紹介する

### 成績評価の方法・基準

期末のレポートによる

### 事前準備学習

なし

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

## 30009 生涯発達心理学 (Lifelong Developmental Psychology)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 小野 美和

履修可能学科

N

関連資格

看護

到達目標

- (1) 生涯発達の過程における様々な心理的課題やその特徴を理解することができる。
- (2) 乳幼児期から青年期にかけての心理的発達の特徴を理解し、今日の社会的問題や課題について心理学的立場から考えることができる。
- (3) 成人期以降の発達過程やその心理的課題・問題を理解し、今後の自分自身の自己実現への展望を考える視野を広げることができる。
- (4) 各発達段階における心理的課題についてその心理・教育的支援の方法や対応について考える力を身につけることができる。

授業計画

- 【第01回】生涯発達心理学とは何か・・・授業の進め方、内容について説明し、扱う分野について説明を行います。
- 【第02回】乳幼児期の発達・・・乳幼児期の発達について説明を行います。
- 【第03回】幼児・児童期と親子関係・・・親子関係、ことば（コミュニケーション）の発達に焦点をあてます。また、この時期にみられやすい心理的問題について理解を深めます。
- 【第04回】児童期の発達・・・認知的発達、対人関係の広がりについて説明を行います。
- 【第05回】児童期と学校・・・学校、学級と子どもたちという観点からその発達を考えます。
- 【第06回】思春期の発達（青年期前期）・・・中学生に焦点を当て、その心理的発達と問題について扱います。
- 【第07回】青年期後期の発達・・・高校生・大学生に焦点を当て、その心理的発達と課題について考えます。また、自分自身を心理テストから捉えます。
- 【第08回】自己実現と職業選択・・・青年期の発達課題と職業選択について考えます。また、関連する視聴覚素材を用いて感想レポートを作成します。
- 【第09回】発達支援と適応・・・障害をもつ子ども、人への発達支援や私たち自身の心理的安定を保つ仕組みについて理解を深めます。
- 【第10回】成人期の発達・・・成人期の発達課題とその特徴を説明し、今日的な問題について考えます。
- 【第11回】中年期の発達・・・中年期の発達課題とその特徴や子育てとの関連を説明します。
- 【第12回】老年期の発達・・・老年期の発達課題とその特徴を説明し、その支援の在り方を考えます。
- 【第13回】生涯発達と障害・・・様々な障害の特徴を理解し、生涯発達の中で障害をもつことの意味を考えます。
- 【第14回】自分らしさを考える・・・これまでの授業内容を整理し、自分らしさとは何かについて考えます。
- 【第15回】総まとめ・・・生涯発達心理学と人間理解について扱います。

授業概略

人は社会の中で育ち、様々な人と出会います。そして、誕生してから生涯を閉じるその瞬間まで発達を続けます。こ

の授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、それを心理学的な知見に基づいて理解していきます。具体的には、乳幼児期から青年期までの自己の発達や対人関係について標準的な発達過程を概観します。また、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題について考え理解を深めます。そして、学生の皆さんがこれから経験していく成人期、中年期、老年期の発達について様々な心理学的知見を紹介し、将来的な展望へと生かしてもらうことを目指します。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって理解することが目的です。

教科書

教科書は特に使用しません。必要に応じてプリントや資料を配布します。

参考書

特にありません。必要に応じて授業の中で提示します。

成績評価の方法・基準

成績評価に関しては、次の2点の総合点を「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準にそって評価を行います。〔授業中・外の学習成果〕20%・・・授業中に作成する小レポート、授業の内容に関して課す小レポート、体験課題等への参加内容・態度により評価します。そのため、無断欠席に関しては減点対象とします。また、レポート等の提出期限に遅れた場合も、理由に関係なく減点します。〔学期末の学習成果〕80%・・・定期試験の結果により評価をします。試験の内容、形式等については授業内で発表を行います。

事前準備学習

授業概要の部分でも述べましたが、人は社会の中で発達します。そのため、日ごろから様々な人の営みに関心を持ち、ニュースや新聞などを積極的に読んでおく習慣があることが望ましいと考えます。また、授業の中で学習したことを自分自身のこれまでの経験と比較し、さらに理解を深めておく事後学習が必要です。

備考

自分なりの問題意識を持ちながら、積極的な姿勢で参加してもらうことを望みます。

## 30010 生命科学の基礎（化学・生物含む） (Introduction to life science)

配置年次 1

単位数 1 期間 前期

担当者 中原 東郎

履修可能学科

N

関連資格

看護

到達目標

生命科学（ライフサイエンス）は、化学、分子生物学、微生物学などの発展につれてその領域が明確にされ、ヒトの生命を重要視する、生物学から分岐発展してきた新しい学問分野です。この授業においては、生命現象の仕組みとそのすばらしさ・面白さ・美しさなどを生物の基本単位である細胞レベルから、また生物としてのヒトに着目しつつ概説します。食と健康、生命倫理と共に、化学と生物学の関連する基礎、水分子、化学結合、生物の自然発生説、微生物学の歴史についても相当な理解をすることを目標とします。

授業計画

- 第1回：生命科学はどのように誕生したか
- 第2回：細胞からみたヒト
- 第3回：生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA
- 第4回：水のふしぎ、水素結合とは
- 第5回：自然発生説、微生物学小史

第6回：発生と老化

第7回：食と健康

第8回：生命倫理

#### 授業概略

生命科学（ライフサイエンス）は、化学、分子生物学、微生物学などの発展につれてその領域が明確にされ、ヒトの生命を重要視する、生物学から分岐発展してきた新しい学問分野です。この授業においては、生命現象の仕組みとそのすばらしさ・面白さ・美しさなどを生物の基本単位である細胞レベルから、また生物としてのヒトに着目しつつ、食と健康、生命倫理についても概説します。化学と生物学の関連する基礎が習得できるよう、また今後学んで行く専門領域への橋渡しができるような授業にするよう努めます。教科書に加えて、水分子、化学結合、酵素反応、生物の自然発生説、微生物学の歴史についても学んでいただきます。

#### 教科書

『文系のための生命科学』 東京大学生命科学教科書編集委員会／編 羊土社

#### 参考書

特に指定しない

#### 成績評価の方法・基準

75%以上の出席率と、試験あるいはレポート

#### 事前準備学習

授業ではきっちりノートを取るようしてください。

予め、教科書の該当部分を読んでおくようして下さい。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外